

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775700343		
法人名	有限会社 八佳堂		
事業所名	グループホーム優悠館		
所在地	大阪府四條畷市岡山東4丁目7-8		
自己評価作成日	平成22年4月9日	評価結果市町村受理日	平成22年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775700343&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F
訪問調査日	平成22年5月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の入浴(365日) ご本人の状態、意志を確認しながら短時間でも毎日(雨天は除く)施設外へ出る あたりまえの暮らしを日々つみ重ねる
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者のお気に入り場所のリビングには、「みんなちがって、みんないい」の詩が掲げられて心が洗われる。玄関周り、室内のデザインは、その個性尊重のための空間として設計されており、利用者はそれぞれ、ゆったりと思いを巡らしながら時間を過ごすことができる。一日の生活は、決められた行事をこなしていくというような考えはなく、本人がこれまで行ってきた暮らしのリズムが続けられるように、今日という日を心ゆくまで楽しむように支援がなされている。職員の多くは介護の専門資格を取得しているが、スキルより態度や価値観が重要視され、利用者のパートナーとして、陰に隠れた「その人らしさ」を大切にしている姿が伺える。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員には話し合いなどの機会を通じて、家族には便りやホームページなどで共有をはかっている。家庭的な雰囲気を壊したくない信念から、事業所内の掲示はあえて行っていない。	「その人らしく暮らしていただけることを応援します」と目指す支援のあり方を示している。人それぞれに異なる不自由さの支援で、選んでもらう場面でどう待つか等、職員は支援の原点に触れながら話し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が孤立しているわけではないが、積極的に交流しているとはいえない。自然な関係がいいのではないかと考えている。	地域の秋祭りに参加したり、近隣の施設の花火大会に参加したり、ボランティアとは読み聞かせとか紙芝居で交流し、保育園児とは散歩の時に挨拶を交わす等、地域とのつながりを実感している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の暮らしに生かしているとはいえない。近所は若い年代の家族が多いので、認知症への理解が薄いように思える。高齢者世帯からの相談等は時折ある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおよそ3か月に1回の実施。和気あいあいの雰囲気の中での話し合いを通じ、サービスの見直し向上に活かすよう努力している。	利用者家族、市役所職員、民生・児童委員、施設長等の構成になっているが、年4回の開催になっている。報告事項として、職員処遇改善、消防訓練等が取り上げられているが、委員からの助言、要望を聞く機会が少ない。	運営推進会議は、地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。2か月に1回以上開催し、サービスの提供状況の内容について評価・要望・助言を受ける取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者、広域連合担当者とは、日頃から連絡を取り合っており、協力関係は築けている。	施設長は以前に市の福祉課勤務ということもあり、市町村とは気安く、また必要に応じて連絡を取っている。介護相談員の訪問時には、サービス提供の状況を伝えたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員は理解し、身体拘束をしないケアを行っている。	利用者の行動を制限しないことを、拘束しないことによるリスクも含めて話し合っている。家族等から安全のための要望があった場合でも、工夫をし、取り組み方針を示している。玄関は夜間以外は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所連絡会などの研修の機会を通じ、職員同士で話し合い、防止に努めている。入浴時などには身体状況に異常がないかを注意をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修等ではそれぞれが学ぶ機会はあると思うが、内部研修は行えていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少人数の事業所でもあるので利用者、家族の意見が直接反映できる体制となっている。	家族の来訪時には、どの職員も業務に追われることなく声かけをし、暮らしぶりを報告する中で、意見や要望を聞くようにしている。衣類の交換、体調急変時の対応等の相談には適切に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者と職員間のコミュニケーションは取れており、意見の反映はできている。	施設長・管理者は、職員が利用者の支援に専心できるよう、ボランティア残業をなくし、また介護職員処遇改善交付金には積極的に取り組み、一方、職員の提言は信頼を持って取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与、労働時間等十分配慮されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修を受ける機会は確保されている。内部研修は職員数が少ないこともあり、日常の話し合いなどで処理することが多くなっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪GH協、くすのき連合事業所連絡会、市内事業所連絡会、民間事業所連絡会などに所属しネットワークをつくっている。他施設からの実習も積極的に受け入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	早期にご本人が安心感を得られるようチームとして情報を共有し声掛け支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が入居に際して罪悪感や不安を感じないよう出来る限り傾聴する姿勢をこころがけ対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者、計画作成担当が家族と相談し、支援の必要性を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の各場面で利用者ができる限り主体性をもって参加できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来館された折には利用者の様子などを伝え家族が身近に感じられるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と相談協力しながら馴染みの人たちの訪問も積極的に受け入れている。	友人・知人の訪問時には、ゆったりと過ごせるような雰囲気や場を確保している。顔なじみがいる婦人会や教会に出かけたり、時には家族とお墓参りとかお花教室に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係が円満に保たれるよう見守り声掛けをし、支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰についてはケアマネを紹介し、本人家族とも関係を切らさないよう努めている。また入院他施設への移行についても同様である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り本人の意向を把握、思いに添ったケアができるよう努力している。	日常生活のケアには目が行き届いており、聞き方においても利用者の一つひとつの選択を大事にし、サインを見失うことなく意向を推し測っている。自由な自己決定の積み上げこそがその人らし生活になっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時から現在まで常にご本人のことが知れるよう努力している。場合によってはそれまでの生活環境をしるべく、居宅訪問をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チームで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのありかた等は本人家族職員間で話し合い決定しているが、援助方法の変更などは短時間のミーティングで決めることがあり実践が先になることもある。	カンファレンスでは職員の情報・意見を、家族とは面会の中で聞き取り、支援目標を明確にしている。見直し時には家族の承認印を得ている。介護日誌には各個人ごとのケアポイントを明記し、記録内容の充実を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳への記入など情報の共有は出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	原則はあるが、その都度、本人や家族の状況を見て、臨機応変に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	機械浴サービスを受けておられる方がおられるが費用もかかるため、全体としては無料の資源を利用するよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医師には定期往診、臨時往診などをしていただいているので適切な医療を受けられていると思われる。	協力医療機関の受診利用者が多いが、自由な選択に基づき、利用前からのかかりつけ医で継続受診している利用者もいる。医療機関とは施設長がよく知っている間柄で、良好な関係である。受診結果は記録されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職は情報を共有している。協力して必要な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族を介して又は介護者が病院へ面会に行き情報交換、情報収集をし、早期退院にむけ対応している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	できる限りご本人や家族の希望に添えるよう取り組んでいる。	今までに看取りのケースはないが、利用者が医療的ニーズを必要とするようになった場合は、個別対応の中で話し合っている。医療連携体制加算で、看護職員が必要な対応を取ることができる体制になっている。しかし、事業所の対応方針作成までに至っていない。	重度化などでの支援は、日常の支援の延長上にあるもので、その時だけのことではない。利用者や家族が安心して送れるよう、事業所としての対応方針を作成し、職員も含めた関係者の中で共有することが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべて十分に訓練できているとは言えないが、初期対応については折にふれ話し合い、概ねクリアできていると考える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防点検、消防計画の提出は完了しているが、年2回の訓練を確実に行うように努める。また地域との協力体制も今後検討している。	消防訓練では、消防署指導で通報・消火・避難訓練を実施し、実際にどのように対応するか自主研修も行っている。しかし、訓練は年1回に留まり、地域住民との協力体制作りが十分とは言えない。	職員だけの限界を踏まえ、昼夜も想定した年2回の訓練を実施する。また運営推進会議などで、地域住民やバックアップ施設と協力関係を話し合い、支援体制を構築することが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	折にふれ、職員間のミーティングで話し合い心掛けています。	本人を尊重した呼びかけをし、さりげない言葉かけでトイレ誘導をしている。また居室への入室は本人の了解を得るなどと尊重する姿勢を徹底している。利用者の各種記録は慎重に取り扱い、施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や思いを述べやすい環境づくりをすることにより、自己決定ができるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かく一日の予定を決めるのではなく、その日の状況に応じて柔軟に対応している。また集団行動を強いらないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人の好みを取り入れ、ご家族とも相談しながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けとも、利用者ができる限り参加できるよう支援している。	落ち着いた色合いの組合せ式食卓を囲っての食事は、職員を含めての絆を確かめ合う場となっている。対面式キッチンに間に、利用者は盛り付けなどを手伝い、食事の雰囲気を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、季節、INOUTのバランスも考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせて対応できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状況に応じ、できる限りトイレで自力排泄できるよう支援している。	利用者の排泄のサイクルを把握して、声かけ誘導をし、日中は可能な限りトイレでの排泄を促している。利用者の状態に応じて、リハビリパンツ・パット等の用品を使い分けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターン、飲食物の効果、運動などを活かせるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が基本である。その日の気分やタイミングを見合わせ入浴していただけるよう声掛け支援している。	入浴は午後の時間帯で、一人15分～20分を基準にして、全員がほぼ毎日入浴している。職員は1対1で介助している。入浴を嫌がる時には言葉かけや対応に工夫をすることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や体調にあわせ休息できるよう支援している。また休息する場所の工夫もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は目的、副作用について理解できている。医師、薬剤師とのコミュニケーションを図り服薬の効果、症状の変化に対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	小さなことでも個々の力を活かせるよう役割づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在地域の人々と協力しながらの外出はないが、ご家族の支援のもと外出していただいている。	午前中の散歩は日課となっており、車いすでの外出もある。主に近隣に出かけるが、玄関前の池周りの散歩は人気がある。隣家の畑で季節感を味わったりすることもあるが、外出による地域の中に住んでいる実感が、何よりも居心地の良さにつながっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在金銭を自己管理、手元に所持されている方はない。希望があればご家族の協力を得て、支援する体制にはなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員が介助し電話をかけ、取り次ぎも行っている。携帯電話の制限は行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気づくりを心掛けている。華美または幼稚な装飾をしないようにしている。	玄関周りには、四季折々の花が植えられ、畑では草引きを行う。ウッドデッキなどでは外気浴もでき、日差しの強い日には日よけ装置があり、のどかにお茶を楽しむ。リビングにはやわらかい色調のソファが配置され、利用者はリラックスした姿勢で過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、スペースごとにホットできる空間を作る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものや好みのものをお持ちいただくよう説明、入居後もご本人の希望、ご家族と相談しながら居室づくりを行っている。	各室にはセミダブルベットが備えられ、利用者はゆったり休めるようになっている。馴染みの籐椅子、家族の写真などはこれまでの環境を感じさせる。個室の入り口の暖簾の様々な模様は、家族との結びつきを連想させる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員の声掛けが常にあるので、入居者に不安は感じられない。安全面については常に心掛けている。		